

龍源寺報

平成30年 正月号

臨濟宗・妙心寺派
住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覺樹
正福寺住職 松原行樹
TEL 3451-1853
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

新年を迎えて

松原 信樹

私は縁があつて昭和四十六年五月に龍源寺住職松原哲明の子に生まれた。人は自分の両親を選ぶことはできない。平安時代の貴族、ヨーロッパの貴族に生まれてもよかつたのにそうならず、禅寺で生まれた。思うに人間は、自分の容姿、家庭環境、親戚関係など変えることのできない限定された境遇の中で、それらを自分の運命として受け入れながら、誰しもが、自分の人生に活路を開いていくという努力をして生きている。

毎日の生活の中で、いかに生きるべきかを考えない人はいないと思う。例えば朝昼晩、何を食べるか。何時に寝て何時に起きるか。これらは、いかに生きるべきかという問題に直結している。ゆえに、禅の修行は、朝の勤行から始まり、掃除、食事、就寝に到るまであらゆる事が修行とされている。

現代では、仕事に関して様々な変化が現れている。日本で通例であつた終身雇用制も能力中心主義のようなものに取って変わられはじめた。男女共同参画やボランティアが重視

されている。そうした労働環境の中、定年とともに第二の人生に入り、高齢化社会の中で老いを迎えることが現代人の人生設計の大きな課題になっている。そこには、年金、介護、医療などの問題が関わってくる。その時に人は、改めて単なる職業としての仕事を超えて、自分の一生の仕事、生きがいの意味を考えるという。自分の一生の仕事とはどのようなものだろう。何を生きがいにして毎日を暮らしたら良いのだろう。

哲学者のカントは、「これでよい」と言い遺して生涯を閉じたと言われている。生涯の終わりを覚悟することと生きがいは密接に関連していると思う。人間の一生の課題は、自分の生きがいに向けた精進と忍耐に尽きる。その果てしない格闘の上に、成果としての花が咲く。その花は世間の人々に知られなくてもよい花である。自然の姿をみても毎日登る太陽の光は、名のない小さな花にも平等に降り注ぐ。それだけで十分である。お世話になつている多くの皆さまに、感謝の気持ちを捧げる一年にしたい。

本年も宜しくお願い申し上げます。

寄付

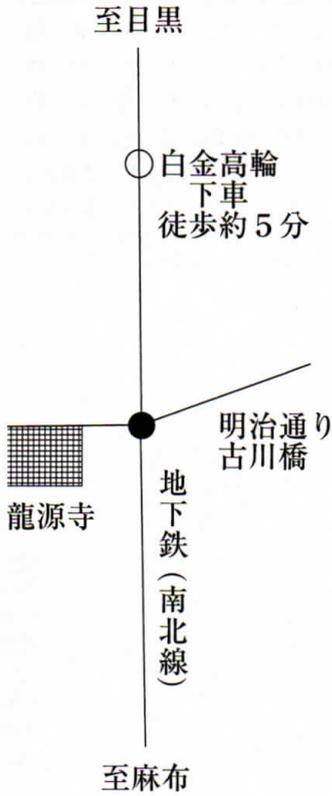
かんのんさまに

金三万円也

野島博子殿

ありがとうございました

※将来は、本堂の裏地を整理して、大般若経を納める経蔵を建立する計画をしております。



大般若会(お正月の祈禱法要)

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、一月六日(土曜日・午前十一時より)

一、読経

一、法話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便(地下鉄)

●都営三田線

(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)

●2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便(都バス)

●田87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車

●都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車

●品97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車

●反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ(循環) 魚ラン坂下・古川橋下車

●東98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下下車

龍源寺の歴史について(一〇)

松原 泰道

大正八年ごろの当寺の檀家戸数は三十二戸に過ぎなかつたので、祖来和尚の願心や総代中澤六之助氏の熱意にも拘らず必要経費を募ることは容易ではありません。加えて大正十二年の大震災で檀信徒のほとんどすべてが罹災されて寄附の勧募はついに中止しなければならなかつたことが記録に残っています。

寺は、震災でひどくゆがみましたが、幸い倒れることもなく、地震による火災も逃れましたが、引続いた例の暴動のデマに脅えた附近の人々が本堂や庭になだれこんだので建具や什物がひどく荒らされました。また罹災者の避難所に指定されたので遠く芝浦あたりから負傷した従業員がタンカで運ばれて来るなど一時は大へんな騒ぎ

でした。

当時の東京市当局が「水道を敷いて、井戸は非衛生であるから即刻埋没するように」と再三の指令でしたが、祖来和尚は持ち前のガンコさから応ぜず、かえって井戸がえやら井戸ワクを新たにしました。その数日後に大地震があつたので、幾百の避難者は大助かりでした。

それにも増してうれしいことは、僅かのお檀家とはいえ、三十二戸中、倒壊一一、火災一八の罹災にもかかわらず、一人の災死者もなかつたことです。それを知ると祖来和尚は大喜びで仏天のご加護と各ご先祖のおかげであるとして、渋谷東北寺その他にある龍源寺墓地の倒れたりゆがんだ墓石を石工を頼んで修理にあたりました。

このようなことで、本堂・庫裡改築工事は中止と決定しなければなりません。祖来和尚と中沢六之助氏ら総代衆の残念そうな

面影が、その頃中学生だった私の心に深く印象づけられています。

然し、震災と避難者のため破損したり荒らされたところを根本的に修理するために、その立退き所を兼ねた書院(現在の二階建)一棟を新築することになりました。

本堂庫裡修繕の経費二、九八五円七四銭也は檀信徒諸氏の浄財に仰ぎ、新築書院の経費四、〇一八円八十九銭也は住職祖来和尚の個人建立として竣工の上は龍源寺へ寄附することに決定。法類、総代等当事者の同意署名を得、宗派機関や諸官庁の許可を得たのが大正十五年の九月三日で、その廿六日から書院新築にかかり同年の十二月廿三日に落成、修繕工事は翌昭和二年一月末日に完了しました。



柳 緑
花 紅
明けましておめでとうござ
います。昭和五十年十一月
二十三日に龍源寺建立三百
年を記念して、泰道和尚と
哲明和尚は、檀信徒の皆さ
まと共に、本堂を建立致しました。龍
源寺は、平成三十七年に三百五十年と
なります。その事業の一環として、本
堂へのエレベーター増築。東北寺合同
船・納骨堂の建設。引き続き、借地の
整備を進めます。エレベーターに関し
ましては、多くのお檀家さまからの強
い要望があり、この度、準備に入らせ
ていただきました。安心してお参りし
ていただく環境を整えていきたいと思
います。また、渋谷区広尾にございま
す東北寺内合同船は、私が住職をさせ
ていただいてから、大変多くの方が利
用されています。計画している納骨堂
は、今までの合同船とは違い、骨壺に
収まった状態でお参りできるものです。
お参りの際は、住職と一緒にお経を読
み、お参りをする形になります。過去
の宗教は問いませんが、龍源寺の規則

を尊重していただければどなたでも
後継者のことを心配せずに使用するこ
とができるものにしたと思います。いま
す。借地の整備に関しましては、私の
代を含め三代にわたり継続されていま
す。将来本堂を建て直す際、経蔵を建
立し、寺院らしい景観を保たせるため
です。皆さまのご支援をお願い申し上
げます。▼十二月一日に、開山忌とい
う龍源寺を建てられた越溪和尚の法要
を毎年行い、その後、少しずつ正月支
度に入ります。毎年十二月は、できる
だけ研究の時間をとるようにしていま
す。三月には、巡教という妙心寺の管
長さんにかわってお話をさせていただ
く機会をいただき和歌山に九日間でか
けます。それは同事に、地方の方々の
お話しを聞く機会でもあります。巡教
先のお寺にうかがうと、芳名帳に昔、
祖父や父が記したものに会います。
自分に対する戒めにもなります。体調
に気をつけて参りたいと思います。母
は、仏母寺のお茶会であったり、大晦
日は、除夜の鐘のお手伝いで忙しく働

いています。妻の亜矢は、離乳食の献
立に頭を悩ませながら子育てに奮闘し
ています。娘の瑞樹も一才六ヶ月。健
やかに育っています。▼泰道和尚が記
した「龍源寺の歴史について」も十回
になりました。今でも井戸は毎日使っ
ています。▼病院からの流れの中で決
まってしまうケースが非常に多いよう
です。お檀家さままでお葬式をだされる
場合、信頼のある葬儀社を紹介させて
いただきます。病院で臨終の際、まず
一番はじめに龍源寺か、深夜でしたら、
「あおば葬祭」〇三―五七二―七六五一
(東京都目黒区下目黒五―七―一)
[<http://www.aoba-sousai.co.jp/>]
に、お電話を入れていただきたいと思
います。目黒区にある「あおば葬祭」は、
丁寧なお仕事で皆さまに大変喜ばれて
います。葬儀、家族葬、密葬など気軽
にご相談下さい。生前のご相談も受け
付けています。▼一月六日(土)、大
般若会(お正月の祈祷法要)でお会い
できることを楽しみにしております。
ご家族でお参りください。(信樹)